

(参考様式2) 社会資本総合整備計画 事後評価書

令和元年7月

計画の名称	32 富山市における通学路の安全対策の推進（防災・安全）																		
計画の期間	平成25年度～平成29年度（5年間）					交付対象		富山市											
計画の目標	通学路における緊急合同点検の結果を受け抽出された対策必要箇所について、早急に対策を施すことにより、小学生等の通学児童が安心して使用できる通学路を整備し、通学時の交通事故減少を図る。																		
計画の成果目標（定量的指標）																			
- 通学路における緊急合同点検箇所の対策率を0%（H23）から100%（H29）へ増加させる。 - 市道における歩道の延べ延長を10 k m増加させる。 - 市道における歩行者の交通事故件数を76件（H23）から70件（H29）へ減少させる。																			
定量的指標の定義及び算定式																			
① 緊急合同点検で対策が必要とされた85箇所のうち、対策済み箇所を集計し、その割合を算出する。 (通学路安全対策率) = (通学路安全対策済み箇所数) / (要安全対策箇所数) × 100 (%) ② 市道の歩道延べ延長を集計する。 ③ 市内における人対車両の事故件数を集計する。						定量的指標の現況値及び目標値			備考										
						当初現況値	中間目標値	最終目標値											
						(H23末)	(H27末)	(H29末)											
						0%	64%	100%											
						0km	5km	10km											
76件	73件	70件																	
全体事業費	合計 (A + B + C)	2,910 百万円	A	2,910 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A + B + C)	0.0%									

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
Ⅰ 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		通学路における緊急合同点検の結果を受け抽出された対策必要箇所について、早急に対策を施したことで一定の効果発現がみられた。中でも、小学生等の通学児童が安心して使用できる通学路を計画的に整備したことで、歩行者に係る事故が減少したことが指標から考察される。			
Ⅱ 定量的指標の達成状況	指標①（通学路 の安全対策率）	最終目標値	100.0%	目標値と実績値 に差が出た要因	歩道設置のための事業用地の用地補償等の合意形成に時間を要し、当初計画していた対策スケジュールに遅れが生じ、最終目標を下回る結果となった。
		最終実績値	60.7%		
	指標②（市道の 歩道延べ延長）	最終目標値	10.0km	目標値と実績値 に差が出た要因	歩道整備に関する予算を計画的に確保できたことから、概ね最終目標を達成する結果となった。
		最終実績値	9.8km		
	指標③（人対車 両の事故件数）	最終目標値	70件	目標値と実績値 に差が出た要因	市内の歩道整備延長の増加に伴い、安全な歩行空間を確保できたことから、歩行者の交通事故が減少する結果となった。
		最終実績値	62件		
		最終目標値		目標値と実績値 に差が出た要因	
		最終実績値			
		最終目標値		目標値と実績値 に差が出た要因	
		最終実績値			
Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）					
3. 特記事項（今後の方針等）					
今後、目標値を下回る結果となった指標の改善を図るため、優先順位を踏まえた選択と集中による計画的な事業の執行により、引き続き通学路の安全対策を推進することとする。					

(参考様式3)

(参考図面)

